

しまねの土地改良だより

平成24年8月1日発行

 水土里ネット島根

■ 農業農村整備に係る要望活動を実施

島根県農業農村整備推進協議会(会長 宇津徹男浜田市長)と島根県農地・水・環境保全協議会(会長 長岡秀人出雲市長)は、平成24年7月4日、農業農村整備の推進に必要な予算確保を求め、関係機関に対し要望活動を行いました。

当日は宇津会長、長岡会長2名が島根県選出国會議員、佐々木隆博農林水産副大臣、藤谷光信民主党陳情要請対応本部副本部長、實重重実農林水産省農村振興局長及び同局関係部課長に対し、要望・提案活動を行いました。

要望では「しまねの農業農村の持続的な発展に不可欠な農業農村整備関係予算の確保に格別の配慮をお願いしたい」また「農地・水保全管理支払交付金の平成24年度の島根県への配分枠は、要望額を大きく下回るものであり、特に向上活動の要望額を満たすよう追加配分を是非ともお願いしたい」と要望。佐々木副大臣は、「農業の業だけでは村は守れない。業と農の部分である村を守ることを両立させることが使命である」と考える。地元の声を受けて今後の予算編成に向けて知恵を絞って頑張りたい」と応えられました。



【要望・提案事項】

- 1 農業農村整備関係予算の必要額の確保
- 2 農地・水保全管理支払交付金の予算枠の拡大(共同活動及び向上活動の要望額を賄いうる予算の確保)
- 3 農業体質強化基盤整備促進事業の予算枠の拡大及び平成26年度以降の事業継続
- 4 ふるさと農道緊急整備事業の平成25年度以降の事業継続
- 5 農業水利施設を利用した小水力発電施設の整備に係る予算枠の拡大と規制等の緩和
- 6 老朽化したため池の整備を進める補助事業制度の確立と国庫負担率の拡充

・ 農業農村整備に係る要望活動を実施	1
・ ルーラルミーティング in しまねH24	2
・ 出雲西地区農地整備事業(経営体育成型)起工式	3
・ 県主催農業農村関係若手職員研修に本会からも参加	3
・ 田んぼの学校「自然調べコース」	4
・ 各管内業務説明会及び意見交換会開催報告	4
・ 今後の主な予定	4

■ ルーラルミーティング in しまねH24



平成24年7月19日島根県土地改良会館（東部会場）、7月20日浜田市役所（西部会場）において、島根県農業農村整備推進協議会及び島根県農村災害支援協議会主催による「ルーラルミーティング in しまね（H24）」が、県、市町村、土地改良区関係職員や農村災害復旧専門技術者など延べ約180名が参加し開催されました。

平成13年度から毎年開催され12回目を迎えた今回は、東日本大震災を始め、台風、ゲリラ豪雨、竜巻等々全国各地

で大災害が発生しており、農村地域にも甚大な被害をもたらす災害の頻発化が懸念されていることを受け、「しまねの農業農村整備・地域防災を考える」をテーマに、災害に強い農村社会の形成、今後の防災対策や地域を育む地域づくりについての研修が行われました。

始めに、島根県農地整備課三島防災グループリーダーから「しまねの農村防災について」と題して、災害の事例報告や県内の農地地すべりやため池の状況について説明後、ハード対策とともに、防災・減災のためのソフト対策の重要性についての説明がありました。特に県内5004カ所のため池のうち、238カ所の警戒ため池（貯水量が5000t以上でかつ周辺に10戸以上の宅地があるため池）の監視体制を強化していく方針についても説明されました。

また、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所からは、ため池決壊時の氾濫解析が簡単に出来るハザードマップの事例紹介があり、地域の防災について、行政だけではなく地域住民等も参画しながらの、防災・減災に対する日頃の備えと、万一の際の浸水範囲や避難場所等の情報の共有・開示の重要性が示されました。

最後に、農林水産省農村振興局整備部室本隆司農村整備官（元島根県農村整備課長）による「地域資源の利活用による農業農村整備の今後の展開方向」と題して講演があり、新たな土地改良長期計画の主要課題・政策目標等の説明、再生可能エネルギーの今後の取り組み等々説明があり、今後の農業農村整備推進の方向性について示唆に富む有意義な講演となりました。

また当日は、東日本大震災復旧・復興応援に派遣された島根県職員の4名の方から特別報告もあり、被害の甚大さを改めて痛感するとともに、災害時の通報や避難方法、地域の防災力向上への取り組み・後押しの重要性など、農業農村整備関係者の一層の理解を深める有意義な研修会となりました。



■ 出雲西地区農地整備事業（経営体育成型）起工式

7月26日、出雲市東園町で出雲西地区農地整備事業（経営体育成型）の安全祈願祭及び起工式が、県、市、地元受益者、工事施工者等約40名が参加し執り行われました。

この事業は、島根県が事業主体となり、整地工42.4ha、用水路工6.0km、排水路工5.3km、道路工5.5km、総事業費は8億4千万円で平成28年度にかけて行われます。

当地区はすでに昭和30年代に区画整理が行われていますが、区画が10a程度と小区画で、農道も狭く、用排水路の老朽化が進んでいるため営農に支障を来していました。

本事業の導入により、圃場の大区画化、用排水路の整備等により、高性能農業機械の導入、農作業の効率化を図るとともに、既存の営農組織を農業生産法人に育成して、農業所得の増大と農業経営の安定化を目指しています。

出雲西地域の持続的な発展のためにも、一日も早い事業完了が望まれているところです。



■ 県主催農業農村関係若手職員研修に参加して

7月5日・6日に、県庁会議棟及び現地視察（松江・出雲・雲南管内）にて、「平成24年度 農業農村整備事業関係若手職員研修」を開催され、NN事業関係若手職員（新規採用1～3年）として、本会からも2名が参加しました。

この研修会は、「現場を知る」、「人を知る」を第一の目的として10数年ぶりに農村整備課・農地整備課主催で開催されました。

初めに石原農地整備課長の挨拶後、農業農村整備事業の概要について担当グループから詳細な説明を受けました。また、現地視察では、安能トンネル・湖北地区の地すべり・平田船川汐留堰の国営事業などの現場に行き、作業内容や事業内容などの説明を受け、安能トンネルでは発破作業をする現場に立ち会うこともできました。

この研修会は県土連職員として、日々の業務では体験できない貴重な経験となり、この研修と通して、今後の農業農村整備事業の推進に少しでも力になればと強く思いました。今後の業務に生かせる大変有意義な研修会でした。

（竹田和也、松本浩志）



■ 田んぼの学校「自然調べコース」

7月28日(土)に雲南市大東町の山王寺地区において田んぼの学校「棚田の自然調べコース」が、松江市や雲南市等から約80人の参加により開催されました。

当日の「生き物観察会」では、田んぼや水路でメダカ、ドジョウ、タイコウチ、コオイムシ、カスミサンショウウオ、アカハライモリ等の多種多様な生き物が採捕され、講師の(財)自然環境研究センター斉藤秀生氏から、「これほどの自然豊かな棚田で獲れるお米は、安心・安全で大変美味しい」とのお墨付きの説明がありました。また、「棚田の灯火」では周りが見えなくなり始めた頃、棚田周辺に松明が灯され、辺りは幻想的な景観となり、参加された方々の心に残る素晴らしい田んぼの学校となりました。

■ 各管内業務説明会及び意見交換会開催報告

- 7月 3日 益田市三好家にて、石原県農地整備課長、山岡益田県土整備事務所長外来賓8名、市町会員9名、改良区会員7名、本会10名参加
- 7月 4日 海士町マリポート海士にて、長崎県農林水産部参事、矢田隠岐支庁農林局長外来賓6名、町村会員10名、改良区会員6名、本会5名参加
- 7月 6日 安来市夢ランドしらさぎにて、石井県農村整備課長、小塚東部農林振興センター所長、松江県土整備事務所長外来賓13名、市会員5名、改良区会員10名、本会13名参加
- 7月23日 大田市大田パストラルにて、石井県農村整備課長、高橋大田事業所長外来賓8名、市会員5名、改良区会員5名、本会7名参加
- 7月25日 出雲市ラピタにて、石井県農村整備課長、黒田出雲県土整備事務所長外来賓19名、市町会員9名、改良区会員25名、本会10名参加
- 7月30日 江津市石央地域地場産業振興センターにて、景山西部農林振興センター所長、三島浜田県土整備事務所長外来賓13名、市会員18名、改良区会員3名、本会9名参加

■ 今後の主な予定

- 8月 4日 第41回土地改良関係職員球技大会(出雲市)
- 8日 県央管内業務説明会及び意見交換会(邑南町)
- 20日 島根県農業農村整備推進協議会幹事会(本会)
- 21日 県土連第2回理事会(本会)
- 雲南管内業務説明会及び意見交換会(雲南市)

みどり
「水」「土」「里」
の未来を創造し働きます

「水」・・・農業用水や地域用水
「土」・・・土地や農地
「里」・・・農村空間、農家や地域住民が一体となった生活空間

水土里ネット島根 (島根県土地改良事業団体連合会)

〒690-0876 島根県松江市黒田町 432-1 島根県土地改良会館 TEL 0852-32-4141
ホームページ <http://www.shimanedoren.or.jp/> メール smndoren@shimanedoren.or.jp